

この教材見本は、実際の1カ月分の教材よりも回数・ページ数が少ないダイジェスト版です。

※実際の教材の1カ月あたりの学習量は、1回30～60分×4回です。

この教材見本は1カ月分の一部を抜粋して掲載しています。

下記の黒字が今回の掲載回です。

※テキストスタイル、進学クラスの教材見本です。

入試特訓 論説文 1

- 1 〔読解〕 文脈・部分的内容 1
- 2 〔読解〕 文脈・部分的内容 2
- 3 〔知識〕 文節・品詞分類
- 4 添削問題

添削問題 解答解説



入試では初めて見る文章を読み取る力が問われる！



みなさんこんにちは。これからいっしょにがんばりましょう。

受験勉強のスタートを切るにあたって、まずみなさんに知っておいてほしいことがあります。それは、定期テストと入試問題の違いです。

●定期テスト⇨授業で学習した内容について理解しているかどうか問われる

●入試問題 ⇨初めて見る文章を読解し、問題に答えられるかどうか問われる

高校入試では、初めて見る文章を正確に読み取る力、限られた時間の中で正しく問題に答える力が求められるのです。「難しそう……」と思った人もいるかもしれませんが、でも大丈夫！ Z会では、入試で出題されるさまざまな文章を読みこなしていくコツをみなさんに伝授していきます。これから一年間、しっかりとついてきてくださいね。

高校入試に向けて、Z会の国語では、次のことを心にとめて学習していきますしよう。

★初めから全問正解できなくても大丈夫！ それよりも自分のできなかったところを知り、一つひとつ克服していこう。

★知らない言葉が出てきたら、こまめに意味を確認しよう！

論説文の攻略ポイントを確認！

●指示語が指す内容をとらえる ●

◎指示語が指す範囲

原則として、指示語は前に出てきた内容を指す。指示内容を探すときは、指示語を含む文や段落と、同じ話題・キーワードについて述べている箇所に注目しよう。ただし、まれに指示語のあとに指示内容がくることがあるので注意しよう。

◎指示内容のとらえ方

①指示語を含む文を読む（話題やキーワードに注意）。

②前の記述から指示内容を探す。

③見つけた内容を指示語にあてはめて、文意が通るか確認する。

とくに、③の確認作業は必ず行うようにしよう。

●段落を意識しながら読む ●

◎意味段落どうしの関係を理解して、文章全体の展開をつかむ

①各形式段落の内容を読み取り、同じ内容の段落を意味段落としてまとめる。

②各意味段落の冒頭の接続語や指示語に注目し、その意味段落が文章全体でどのような役割をもっているかをつかむ。

各意味段落の役割をつかみ、たとえば「Ⅰ話題の提示→Ⅱ具体例→Ⅲ筆者の意見」などのように、大まかでよいので文章全体がどのような構成になっているかをとらえよう。それによって筆者の主張もとらえやすくなる。

入試問題にチャレンジ！

今回の実力アップ！ポイント

今回は、問四で指示語が指す内容を答える問題にチャレンジします。指示内容を問うものは、高校入試では文章の種類を問わず非常によく出題されます。今回の問題では、**指示語を含む段落の内容をしっかりととらえる**ことがポイントです。選んだ答えを指示語にあてはめて確認することも忘れないようにしましょう。

許諾の都合により、掲載しておりません。

許諾の都合により、掲載しておりません。

許諾の都合により、掲載しておりません。

許諾の都合により、掲載していません。

許諾の都合により、
掲載しておりません。

解説

問一 空欄補充の問題は、前後の文脈をおさえることと、選択肢にあげられた語の意味・用法を知っておくことが大切です。

A について。空欄の前では、絵の具のませあわせによって「いろいろ複雑な色もでている」ことが述べられ、空欄のあとでは、「長年月のうちに、顔料が緩慢な化学変化を受けて、色がますます複雑になった点もある」とあります。複雑な色が見られるのは、**絵の具のませあわせ**だけでなく、**化学変化**によるものもあるだろう、と補足して説明しているのです、説明を付け足すことを表す力「もつとも」があてはまります。

B について。「……原始人に、どうしてこういう芸術作品がつくれたか、**B** 不思議である」とあり、ここでの「こういう芸術作品」は、前文の「ニューヨークの展覧会に出しても、大賞をとりそうな絵」を指しています。つまり、すばらしい出来ばえの絵だということ、原

始人にこのような絵が描けたことが非常に不思議である、という文意になります。よって、Bには程度や状態がはなはだしいことを表す「いかにも」があてはまります。

問二 傍線部はラスコウ洞窟の絵について述べたものです。ラスコウ洞窟の絵のどのような点がすばらしいのか、説明しているのは②段落です。この段落からラスコウ洞窟の絵の長所をあげてみましょう。

- いろいろな複雑な色がでている
- 筆致が素朴かつ雄渾
- 形がよく野生動物の姿を写しているばかりでなく、その性格までもみごとに表現している

このような長所があるために、筆者は「とても二万年も昔の原始人類が描いたものとは思われ」ず、「ニューヨークの展覧会に出しても、大賞をとりそうな絵」だと賞賛しているのです。これらの長所の中から、「野生動物の姿だけでなく、その性格まで力強く巧みに描いている」点をおさえたAが正解です。

Iは、原始時代の人々が「絵の具の化学変化で、鮮やかな色が出ること」を「計算」していたわけではないので誤りです。二万年経った現在だからこそ「化学変化」が起きたことがわかったのです。Uは、「複雑な構図で描かれた」が誤りです。そのような記述はありません。Eは、「原始人類には、絵を描くこと自体が難しいこと」が誤りです。①段落のはじめに、原始人類が住んでいた洞窟に、絵が描かれたものがいくつかあったことが述べられています。

問三 傍線部を含む一文は「ほんとうの芸術というものは、こういうものかもしれない」とあります。「こういうもの」とは、①・②段落で述べられてきた「ラスコウの壁画」のような特徴をもった絵画のことです。そして③段落では、「ラスコウの壁画」のような絵がなぜ「ほんとうの芸術」といえるのか、筆者の考えが述べられています。

原始人類

- ・ 野生動物がきわめて身近であり、大切なもの
- ・ 野生動物の姿が脳裏に深く焼きつけられていた（野生動物の姿をしつかりと記憶していた）

← 自分の頭に残っているイメージを、無心で壁面に残した

= 世間の評判を顧慮する（気にする）必要もなく、商業価値などにはまったく無縁であった

← このように 純粹な喜びと、宗教的な敬虔さで……作品をつくり出した。

= そういうラスコウの壁画が、高度の芸術品であっても、ちっともおかしくはない

以上のように、ラスコウの壁画は、身近な野生動物の姿の鮮明な記憶をもとに、世間の評判や商業価値などとは無関係に、純粹な気持ちで描かれたものであり、そのような意味で筆者は「ほんとうの芸術」と述べているのです。よって、説明文の空欄には「商業的な価値」と同列に扱われている「世間の評判」が当てはまります。

問四 「人間の眼」が「瞬間写真に匹敵する能力を発揮する」のはどんな場合かを読み取ります。まず、傍線部の直前の一文を確認してみましょう。

そういう立場にあった彼らは、動物の習性や、運動を、われわれの想像を絶した真剣さで、見つめていたにちがいない

この文にも「そういう立場」と指示語が含まれています。この指示内容を確認するために、さらに前の部分にさかのぼりましょう。⑤段落全体では、ラスコウ洞窟の原始人たちについて、次のように述べられています。

彼らは、どうしても、野生動物を捕らえなければならぬ。それができなかつたら、死ぬよりしかたがない。それは本気などという生やさしいものではなく、絶体絶命の問題である

= そういう立場にあった彼らは……

このように、原始人たちにとっては、野生動物を捕らえることが自分の生死にかかわる問題だったので、「そういう立場」は原始人たちのこのような状況を指した言葉です。そして同じように、傍線部の「そういう場合」も、「自分の生死にかかわる場合」を指しています。よって正解はウです。指示語の箇所を選択肢の内容をあてはめてみて、文意がきちんと通じることを確認しておきましょう。

アの「動物の動きを見つめる場合」は、直前の一文だけに注目しており、「そういう立場」が指す内容をふまえていません。イは、⑤段

落の最初のほうの「彼らは、なにも精巧な狩猟道具をもっていたわけではない」に反する内容です。工は、狩猟や自分の生死と関係のない内容なので、誤りです。

読んで 実力アップ!

指示内容を正確にとらえる

指示語は、その指す内容によって、次の二パターンに分けることができます。

- ① 指示語の前の短い内容(語句・一文など)を指す
- ② 指示語の前の広い範囲(段落・それまでの内容全体など)を指す

読解問題などで問われるのは、この二つのパターンのどちらかです(まれに、指示内容があとにある場合もあります)。

このことを念頭におき、指示語の問題では次のことに注意しながら解答を考えていくようにしましょう。

- ◎ 指示語がどこからどこまでの内容を指しているか、範囲を見きわめる
- ◎ 答えの内容に過不足がないようにする

広い範囲を指す場合は、必要に応じて内容を要約します。自分の解答を指示語にあてはめてみて、前後と意味がつながるかどうかが、必ず確認しましょう。

問五 段落の内容を要約する問題です。設問にいくつか条件があります。それらをすべて満たす解答を作成しなくてはなりません。

〈解答にあたっての条件〉

- ① ⑥段落で述べられた「科学の本来の姿」について要約する。
- ② 四十字以上五十字以内で書く。
- ③ 「基礎」「密着」の二語を使う。順序は問わない。
- ④ 書き出しは「本来の姿の科学とは、」とする。
- ⑤ 句読点も一字として数える。
- ⑥ 文は一文でも二文以上でもよい。

このように条件や指定の多い問いでは、条件が書かれたところに線や印を付けて見落としを防ぎましょう。また、条件④のように書き出しが指定されている場合は、先に解答欄に書きこんでおくとよいでしょう。

それでは内容を確認していきます。条件③のように、指定の語句がある場合は、その語句が問題文でどのように使われているかを確認しましょう。これによって解答の手がかりを得ることができます。まず「基礎」は、段落の冒頭で「科学の基礎は……」と述べられていることから、解答でも「科学の基礎」について説明すればよいことがわかります。また「密着」は、「彼らの芸術も、科学も、ともに生活に密着したものであった」とあることから、〈科学が生活に密着している〉ことを述べればよいとわかります。

次に、この問いで求められているのは「科学の本来の姿」について要約することですから、この点について述べている箇所を探します。すると、終わりから二つ目の文に、次のようにあります。

しかし科学の本来の姿は、**「そういうもの」**ではない。

「そういうもの」が指す内容を直前から探すと、

今日の科学は、あまりにも分化し、かつ商業化している。……科学は、一般の人々には、とうてい手のとどかない、はるか彼方のもののように見える。

とあるように、筆者は今日の科学のありようを「本来の姿」ではないと考えていることがわかります。ここで段落の最初に戻りましょう。「ラスコウの原始人たちは、非常に優れた科学者の素質をもっていた」とありますね。つまり、「科学の本来の姿」は、今日の科学のありようではなく、「ラスコウの原始人たち」のあり方に見ることができるときののです。

⑥段落にあげられた、ラスコウの原始人たちのあり方をとり出してみましよう。

- ・ 科学の基礎は、**自然の精確な観察と、その把握**とにある。
- ・ 彼らの芸術も、科学も、ともに**生活に密着した**ものであった。
- ・ **生活にほんとうに役立つ**ものは、この本来の姿の科学である。

これらの内容をまとめて解答とします。

入試にむけて記述力アップ！
○つけのポイント

① 「本来の姿の科学」が、「自然の精確な観察と把握を基礎としている」ということが書かれているか。

本来の姿の科学とは、
① **自然の精確な観察とその把握を基礎として**
いて、
② **生活に密着し、役立つものである。**

② 「本来の姿の科学」が、「生活に密着し、役に立つ」ということが書かれているか。

※文末の形は問わない。

※四十字以上五十字以内で書けていること。

※書き出しが「本来の姿の科学とは、」となっていること。

※「基礎」「密着」の二語を使っていること。

「こんな解答は△」

△ 本来の姿の科学とは、今日の科学のように分化せず、商業化しておらず、一般の人の手が届くもの。(45字)

* 「今日の科学」のありようをあげてそれを打ち消すのではなく、「本来の姿の科学」がどのようなものか、直接述べましょう。また、「基礎」「密着」の二語を必ず解答中で使わなければなりません。

問六 それぞれの選択肢と問題文の内容をきちんと照らし合わせましょう。

アは、「絵を描く精巧な道具があった」が誤りです。②段落に絵の具について「岩石を粉にしたもの」とありますが、「精巧な道具」という記述はありませんね。

イは、「野生動物」を「敵」としている点が誤りです。③段落に「野生動物は、きわめて身近で、かつ大切なものであった」とあります。

ウは、①段落に「これ（＝アルタミラ洞窟の壁画）以上の壁画が見つかった。ラスコウ洞窟の壁画が、それである」とあることに「反しま」すから、誤りです。

エは、②・③段落で筆者が「ラスコウの壁画」を「ほんとうの芸術」「高度の芸術品」などと高く評価していることと、⑥段落で「ラスコウの原始人たちは、非常に優れた科学者の素質をもっていた」と述べていることに合致しており、これが正解です。

まとめ

指示語の問題は、答えを代入して意味が通るか確かめるべし！

段落の役割をとらえて文章全体の構成をつかむべし！

設問の条件や指定語は必ず確認すべし！

記述問題を得意にする！

記述問題 得点力アップの第一歩とは？

設問文の内容や条件をよく確かめて失点を防ごう。



今回の問五では、段落の内容を要約する記述問題に挑戦しましたね。「難しかった」という人も多かったのではないのでしょうか。

記述問題では、まず、**何について答えるのか**を確認することが大切です。あたりまえのようですが、このことを意識しているかどうかで、得点力が大きく違ってきます。**問いが求めていることをしっかりと頭に入れ、問題文から関係のある内容を探す**ことが、得点への第一歩です。

このあたりを見落としがちなので要注意！

例 筆者は⑥段落で、科学の本来の姿について述べている。それを要約して、四十字以上五十字以内で書きなさい。

←この問いでは…
どこから 何について どのように書くのか

⑥段落で述べられた「科学の本来の姿」について、四十字以上五十字以内で要約する。

またこの問いでは、「基礎」「密着」という指定の語句を必ず使うことや、書き出しの形を「本来の科学の姿とは、」とすることのほか、解答欄のマス目の使い方についても指示がありました。

設問条件は、最低限守らなければならない解答にあたってのルールです。守らなかった場合は、減点されたり、その問いが0点になってしまうこともあります。条件が示されているところに——や○をつけるなど、見落としをしない工夫をして失点を防ぎましょう。

● MEMO ●

問題

一 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい(1)～(11)は段落番号(50点)です。

- ① 子どもの頃に読んだ、ちょっとした話がずっと心のなかに残っていることがある。次に紹介する話も、*少年倶楽部ジュニアクラブあたりで読んだのだと思うが、妙に印象的で心のなかに残り続けていたものである。
- ② 何人かの人が漁船で海(a)づりに出かけ、(b)ムチュウムチュウになっているうちに、みるみる夕闇がせまり暗くなってしまった。あわてて帰りかけたが、潮の流れが変わったのか混乱してしまって、方角がわからなくなり、そのうち暗闇になってしまい、都合の悪いことに月も出ない。必死になって灯(たいまつ)だったか? をかかげて方角を知ろうとすることが見当がつかない。
- ③ そのうち、(1) 一同のなかの知恵のある人が、灯を消せと言う。不思議に思いつつ気迫におされて消してしまうと、あたりは真の闇である。しかし、目がだんだんなれてくると、まったくの闇と違っていたのに、遠くの方に浜の町の明りのために、そちらの方が、ぼうーと明るく見えてきた。そこで帰るべき方角がわかり無事に帰ってきた、というのである。
- ④ この話を読んで、方向を知るために、一般には自分の行手を照らすと考えられている灯を消してしまうところが非常に印象的だったことを覚えている。
- ⑤ 子ども心にも何かが深く心に残るということはなかなか意味のある

15

10

ことのように、(2) このエピソードは現在の私の仕事に重要な示唆を与えてくれている。

- ⑥ 子どもが登校しなくなる。困り切ってその母親が相談に行くと、学校の先生が、「過保護に育てたが悪い」と言う。そうだ、その通りだと思いき、それまで子どもの手とり足とりというような世話をしていたのを一切止めにしてしまう。ところが、子どもは登校しないどころか、余計に悪くなってくる気がする。そこで他の人に相談してみると、子どもが育ってゆくためには「甘え」が大切である。子どもに思い切った甘えさせるといい、と言われる。困ったときの神頼みで、ともかく言われたことをやってみるがうまくゆかない。どうしていいかわからないということ、われわれ専門家のところにやって来られる。
- ⑦ 「過保護はいけない」、「甘えさせることが大切」などの考えは、それはそれなりに一理があつて間違いだなどは言えない。x、それは目を照らしている灯のようなもので、その人にとって大切なことは、そのような目の解決を(c)アセつて、灯をあちらこちらとかかげて見るのではなく、一度それを消して、闇のなかで落ちついて目をこらすことである。そうすると闇と思っていたなかに、ぼうーと光が見えてくるように、自分の心の深みから、本当に自分の子どもが望んでいるのは、どのようなことなのか、いったい子どもを愛するということとはどんなことなのか、がだんだんとわかってくる。そうなるにつくと、解決への方向が見えてくるのである。
- ⑧ 不安にかられて、それなりの灯をもって、うろろろする人(このこ

40

35

30

20

とを、できるだけのことをしたと表現する人もある) に対して、灯を消して暫くしばらくの闇に耐えてもらおう仕事を共にするのが、われわれ心理療法師の役割である。このように言っても、闇は怖いので、なかなか灯を消せるものではない。時には、油がつきて灯が自然に消えるまで待たねばならぬときもあるし、急を要するときは、灯を取り上げて海に投げ入れるほどのこともしなくてはならぬときがある。そんなことをして、闇のなかに光が必ず見えて来るといふ保証があるわけでもない。したがって、個々の場合にに応じて、心理療法師の判断が必要となってくるのだが、その点については、ここで論じることはしない。

9) もっとも、不安な人は「y」をもつかむ気持ちで居られるので、⁽³⁾ そのような人に適当に灯を売るのが職業にしている人もある。それはそれなりにまた存在意義もあるので、にわかには善し悪しは言えないが、それは専門家ではないことは確かである。

10) 子ども心にも、特に印象に残る話というのは、やはりその人にとつて、人生全体を通じての深い意味をもっているものなのだろう。子ども頃知って記憶している話が、現在の自分の職業の本質と^(d) ミツセツにかかわっていることに気づかれる人は、あんがい多いのではなからうか。

11) ⁽⁴⁾ 目先を照らす役に立っている灯——それは他人から与えられたものであることが多い——を、あえて消してしまい、闇のなかに目をこらして遠い目標を見出そうとする勇氣は、誰にとつても、人生のどこかで必要なことと言っていいのではなからうか。最近場あたりの灯を売る人が増えてきたので、ますます、自分の目に頼って闇の中にも見える必要が高くなっていると思われ。

河合隼雄『「こころの処方箋」』（新潮社）

注 *少年倶楽部Ⅱ大正・昭和時代に発行された少年向けの雑誌。

問一 傍線(a)～(d)の片仮名を漢字に直しなさい。(各2点)

問二 傍線(1)とありますが、「知恵のある人」はなぜこのように言ったのですか。三十文字以内で書きなさい。(7点)

実力アップ！問題

問三 傍線(2)とありますが、「このエピソード」と「現在の私の仕事」に共通するのはどのような点ですか。最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(7点)

- ア ほかの人の意見を素直に聞いて、すぐに実行に移す勇氣をもつことが、困難に突き当たったときにはとても大切であるという点。
- イ 何かを解決するときには、すぐにほかの人の意見を聞くのではなく、まずは自分でできるだけのことをするとよいという点。
- ウ 一見遠回りでもじつと我慢する勇氣をもつほうが、目先の解決策にとびつくよりもうまくいく場合があるという点。
- エ 不安にかられているいろいろなことをするのはなく、なるべく早く専門家に相談するほうがうまくいくことが多いという点。

問四 空欄xに入るものとして最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(5点)

- ア もちろん イ しかし ウ したがって エ または

問五 空欄yに入る言葉をひらがな二字で書きなさい。(4点)

実力アップ！問題

問六 傍線(3)とありますが、なぜ「適当に灯を売るのが職業にしている人」を「専門家ではない」と筆者は考えているのですか。六十字以内で説明しなさい。(12点)

問七 傍線(4)とありますが、「灯」を消すことに「勇氣」が必要な理由として最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(7点)

- ア 一見正しい解決策に頼らないでいるのは、解決から遠ざかるように感じるし、確実にうまくいくとも言えないために不安だから。
 イ 目先の解決策は少なくともその場をしのぐのには最適の方法であり、今後困ったことがあった場合に役に立つものだから。
 ウ 目の前にある解決策を手放してしまったら、「場あたりの灯を売る人」につけこまれ、今よりももっと悩みが深くなってしまうから。
 エ せっかく解決策を提示してくれる人がいるのにそれを否定してしまつたら、もう二度とその人は手助けしてくれないだろうから。

解答

問一 (a) 釣 (b) 夢中 (c) 焦 (d) 密接

問二 手もとの灯を消せば、暗闇の中に町の明りが見えると考えたから。(30字)

問三 ウ

問四 イ

問五 わら

問六 不安に耐えてもらいながら本当の解決となる方向を当人と共に探すのではなく、場あたりの解決策を提示しているにすぎないから。(60字)

問七 ア

解説

問一 (a)「釣り」は通常「つり」と読みますが、「海釣り」「沖釣り」など複合語の場合は「づり」と濁音になります。

(b)「夢中」は「物事に熱中する様子・一つのこと心に奪われている様子」の意。

(c)「焦る」は「期待した結果などが得られずに、落ちつかなくなる」の意。「焦」には他に「こ・げる・こ・がす・こ・がれる」の訓があります。

(d)「密接」は、「離すことができないくらいに深く、近い関係にある様子」の意。この場合の「密」は「すぎまがない」という意味を表しています。

問二 傍線(1)は、漁船で海に出たところ暗くなってしまい、方角がわからなくなってしまうという場面です。灯をにかけて方角を知ろうとしても、うまくいきません。そのとき「知恵のある人」が「灯を消せ」と言ったのです。

傍線(1)のあとを見ると、「目がだんだんなれてくると……遠くの方に浜の町の明りのために、そちらの方が、ぼうーと明るく見えてきた。そこで帰るべき方角がわかり無事に帰ってきた」とあります。つまり、手もとの灯を消せばあたりが暗闇になり、遠くの町の明りが見えてきて帰るべき方角がわかると「知恵のある人」は考えたのですね。そのため「灯を消せ」と言ったのです。

実力アップ！問題

問三 筆者の「仕事」は「心理療法家」(43～44行目)です。具体的には、

⑥段落に、学校に行かなくなった子どもの親が最終的に「われわれ専門家のところに行って来られる」とあることから、「悩みや苦しみを抱えた人たちに対して、心理的な面から対処をする」ことを仕事としていると考えられます。

⑥段落には、学校に行かなくなった子どもの母親が「過保護に育てたのが悪い」「子どもに思い切って甘えさせるといい」といったさまざまなアドバイスを受け、言われたことをやってみても「うまくゆかない」という例があげられています。

このような例に対して筆者は、母親が受けてきたアドバイスの「目先を照らしている灯のようなもの」(33行目)と言い、本当に大切なことは次のようなことだと述べています。

……目先の解決を焦って、灯をあちらこちらとかかかて見るのではなく、一度それを消して、闇のなかで落ちついて目をこらすことである。そうすると闇と想っていたなかに、ぼうーと光が見えてくるように、自分の心の深みから……解決への方向が見えてくるのである。

そして⑧段落で次のようにまとめています。

灯を消して暫くの闇に耐えてもらう仕事を共にするのが、われわれ心理療法家の役割である。

では、漁船のエピソードとの共通点を考えてみましょう。このエピソードでは、最初は手もとの灯を照らしましたが、方角を知ることができませんでした。そこで灯を消したところ、暗闇の中に遠くの光が見え、帰るべき方向を知ることができたのです。

つまり、**目先の解決策にとびつきのをやめ、闇のなかでしばらく我慢をして、本当の解決へと向かえるようにする**という点で、両者は似ているのですね。この内容をおさえたウが正解です。

他の選択肢についても見ておきましょう。アは、目先の解決策にとびつくことをよしとする内容で、筆者の考える「われわれ心理療法家の役割」とは異なっています。イは、「自分でできるだけのことをするとよい」が、自分の心の中を見つめるべきだという筆者の考えと異なっています。エは、「なるべく早く専門家に相談するほうがうまくいくことが多い」が不適切です。専門家に相談するかどうかということよりも、自分の心を見つめることの大切さを筆者は述べています。

問四 接続語の空欄補充では、前後の内容の関係をおさえます。

「過保護はいけない」、「甘えさせることが大切」などの考えは、それはそれなりに一理があつて間違いだなどとは言えない。

⇔ x

それは目先を照らしている灯のようなもので、その人にとって大切なことは、そのような目先の解決を焦って、灯をあちらこちらとかかかて見るのではなく、一度それを消して、闇のなかで落ちついて目をこらすことである。

空欄の前では、「過保護はいけない」などの考え（部）を、（一理ある・間違いではない）と部分的にですが評価しています。一方、空欄のあとでは、そのような考えを（目先の解決策にすぎない・その人にとって大切なことではない）と否定的にとらえています。つまり、空欄の前とあとで反対の事柄が述べられているので、空欄には逆接の接続語「しかし」があてはまります。

問五 「不安な人は y をもつかむ気持ちで居られる」とあります。〈不安を抱えている人はどんなことでも頼ろうとする〉という文脈をとらえ、「**溺れる者はわらをもつかむ**」ということわざを思い出しましょう。「**溺れる者はわらをもつかむ**」は、〈危険な事態になったら、まったく頼りにならないものにでも頼ろうとするものだ〉という意味のことわざです。

実力アップ！問題

問六 「そのような人に適当に灯を売る」の「そのような人」とは、直前にある「不安な人」のことです。〈不安な人に適当に灯を売る〉行為をしている人を、筆者は「専門家ではない」と考えているのです。

⑧段落に、筆者の考える「心理療法家の役割」が述べられています。

不安にかられて、それなりの灯をもつて、うろろろする人に対して、灯を消して暫くの闇に耐えてもらう仕事を共にするのが、われわれ心理療法家の役割である。

目先の解決策を捨てさせて、自分の心の中をしつくり見つけさせることが、筆者の考える「心理療法家の役割」なのです。それに対して、「適当に灯を売る」人はどのようなことを行っているのでしょうか。問題文の最後の文に次のようにあります。

最近場あたりの灯を売る人が増えてきたので、ますます、自分の目に頼って闇の中にもものを見る必要が高くなっていると思われる。

「場あたりの」とは、〈その場しのぎ〉の意ですから、「場あたりの灯」とは、その場しのぎの解決策ということです。

専門家であれば不安な人に対して、目先の解決策には頼らせず、不安に耐えさせながら本当の解決となる方向を一緒に探そうとします。「適当に灯を売る」人はそのようなことをせず、その場しのぎの解決策を示すだけだから、「専門家ではない」と述べているのですね。

問七 「灯」を消せない理由については、⑧段落に「闇は怖いので、な

かなか灯を消せるものではない」と述べられています。ここまでの間で見てきたように、筆者は「灯」を〈目先の解決策〉という意味で用いています。この「灯」は、「それなりに一理があつて間違いだなどとは言えない」（32行目）ものなので、それを消す、つまりその解決策を捨ててしまうことは、一見解決から遠ざかってしまうように感じます。また、そのようにしたからといって「闇のなかに光が必ず見え来るという保証」があるわけでもありません。一見正しく思える解決策を捨てるのはとても不安なことだから、「勇気」が必要なのです。よってアが正解です。

イは、「その場をしのぐのには最適の方法」今後も困ったことがあつた場合に役に立つ」が誤りです。目先の解決策はあくまでも目先のものでしかありません。

ウについて、「目の前にある解決策を手放」すことは、本当の解決策に近づく可能性のある方法です。これによって「場あたりの灯を売る人」に「つけこまれ」ということは書かれていないので誤りです。

エは、「もう二度とその人は手助けしてくれない」が誤りです。「灯」を消すことに対する「勇気」とは無関係な内容です。